

気づい 認心めと 支え合とう



特別支援教育は、学習や生活に困難さがある児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援することを目的としています。よりよい成長のために、周囲の理解と早期からの発見が求められています。

春日部市では、子どもたち一人一人の教育的ニーズに応えるために、子どもにかかわる様々な人々や教育機関等がチームとして支援していきます。保護者の方もチームの一員として、よりよい支援の方向を一緒に考えていきましょう。

発行
編集

春日部市教育委員会
春日部市特別支援教育推進協議会

気づいていますか…子どものサイン

認めていますか…子どものがんばり



- ある決まった教科だけ苦手な子
- 宿題など集中して取り組めない子
- 注意しても同じ失敗を繰り返してしまう子
- たとえ話が分かりにくい子
- 玩具、本、鉛筆など規則正しく並べないと次の行動に移れない子



- 学校へ行きたがらない子
- よく物に当たってしまう子
- ともだちとトラブルを起こしやすい子
- 「めんどろ」「だるい」と言って最初からやろうとしない子



こんな悩みは ありませんか…

Q1 学校からのパンフレットやテレビの放送などを見ると、わが子の行動に似ているようで気になるのですがどうしたらよいでしょうか？

A まず学校に連絡をして心配な点を伝えましょう。家庭と学校とでは様子が違う場合もあるので、関わる人たちがお子さんの様子を共通理解する必要があります。担任の先生のほかに各小中学校には「特別支援教育コーディネーター」という役割の先生がいますので相談してみましょう。また、詳しい相談が必要な場合は専門的な機関を紹介してもらいましょう。

Q2 発達障害は親の育て方が原因の障がいなのでしょうか？

A いいえ、育て方や接し方が原因ではありません。現在の医学では、脳の細かい部分がうまく働かないことが原因と考えられています。したがって育て方や接し方が原因となるものではありません。

Q3 わが子を毎日、同じことで叱ってしまいます。それでもよくなりません。叱りたくないのですが、どうしたらよいでしょうか？

A がんばっても失敗が続き、いつも叱られていると不適応行動（二次障害）が起こることがあります。次の例のように接し方を工夫しましょう。

- ①やり方がわからない、やり方を忘れている場合があります。この場合、やることを伝える時には、言葉で言うだけでなく、目で見てわかるように文字で書いたり簡単な絵を添えたりして伝えてみましょう。取りかかる順番も①～、②～というように数字を添えて伝えるとわかりやすい場合が多いです。
- ②負けたり失敗したりすると不安になる場合があります。「勝負は時の運」「怒鳴る前に深呼吸」「失敗は成功の母」などお子さんの苦手なことを乗り越えやすくするおまじない言葉を考えておきましょう。冷静な時、実際にお子さんに言わせてシュミレーションしておくことも大切です。
- ③テストや提出物など結果だけを気にしていると、「ほめる」機会がとて少なくなります。取り組んでいる姿勢や工夫していることを認めてあげましょう。「ほめる」ことで叱ることが減っていきます。

二次障害は予防できます

学習面や対人関係などで一生懸命やっているけれどうまくいかないという子がいます。この場合、失敗や叱責が続いてしまうこともあり、不適応（不登校、反社会的な行動など）を起こしてしまうことがあります（二次障害）。周囲の気づき、正しい理解、支援により二次障害は予防していくことができます。

学習障害 (LD)

学習（読む 聞く 書く 話す 計算する 推論する）に偏りがある子
※「限局性学習症」と表すこともあります。

高機能自閉症 アスペルガー症候群

「社会性」・「コミュニケーション」・「想像力」につまずきのある
※「自閉スペクトラム症 (ASD)」と表すこともあります。

注意欠陥多動性障害 (ADHD)

「不注意」・「多動性」・「衝動性」のある子
※「注意欠如・多動症」と表すこともあります。

これらの状態は相互に関連しあう可能性もあります。

適した就学先への手順

☆保護者・学校・教育委員会と相談しながら進めます。

4月 ～ 7月 9月 10月 ～ 1月 翌年4月

保護者や担任の気づき

学校との教育相談

校内就学相談委員会判断

個別発達検査

市就学支援委員会判断

学校との就学相談

就学先の決定

特別支援学校

特別支援学級

通級指導教室

通常学級

情緒通級 年3回（7月・12月・2月）入退級判断
翌年4月から通級開始

言語通級（ことばの教室）
5月 一次検査（小1 全員対象）
6月 二次検査
7月 三次検査及び相談
9月から通級開始

☆一般的には、新年度からの転校、入級となります。

☆気づいたときが始まりです。よりよい学習の場を一緒に考えていきましょう。

特別支援学級・通級指導教室とは

知的障害特別支援学級

知的発達に遅れがあり、社会的適応においても困難さがある児童生徒を対象に、健康な体づくり、基本的生活習慣の定着、社会的自立に必要な言語の理解や表現などの学習支援をしています。

また、実態に応じて、通常学級の児童生徒との学習や活動をする機会を設けています。

市内の特別支援学級の合同行事として、学習会や作品展を行っています。また、小学校では合同遠足、中学校では三年生を送る会などで交流を深めています。

発達障害・情緒障害通級指導教室

通常の学級の子どもの中には、様々な原因により順番を守る、みんなと一緒に過ごす、集中して学習する、感情をコントロールなどが苦手な子どもがいます。うまく表現できない為に「わがまま」や「なまけている」と誤解され、時として不適応行動を起こします。

発達・情緒の教室は、安定した豊かな学校生活を目指し、通常の学級で勉強をしながら週に1～2回程度通います。在籍校の先生や保護者の方と協力して、一人一人を支援しています。

自閉症・情緒障害特別支援学級

「人との関わり」「体の感覚のコントロール」「言葉による表現」などに困難さがある児童生徒を対象に、人との円滑な関わり方、適切なコミュニケーションのための言語表現などの学習支援をおこない、情緒の安定を図っています。

また、実態に応じて、通常学級の児童生徒との学習や活動をする機会を設けています。

市内の特別支援学級の合同行事として、学習会や作品展を行っています。また、小学校では合同遠足、中学校では三年生を送る会などで交流を深めています。

難聴・言語障害通級指導教室「ことばの教室」

正しく発音ができなかったり、滑らかに会話ができなかったりすることにより、コミュニケーションの妨げになってしまう場合があります。聞こえに障がいがある場合も同様です。

難聴・言語の教室は、週に1回程度の個別指導を行っています。発音の改善や話し方の苦手克服に努め、音やことばの聞き分け、正しい発音や無理のない話し方を練習しています。必要に応じて、補聴器の装用や適切な活用についても支援しています。

みんなで支え合おう

わかっているよ
きみのこと

イライラする気分や
いやな気持ちをことばで
伝えるのは苦手なの。

「思ったことを文や
絵でかいて教えて。」
とやさしく言ってね。

書いていないルールや
予定がわからなくなる
ときがあるの。

文字や絵で
かいて教えてね。

でも、わたしたちは、いつも
いっしょけんめいだよ。

ともだちがおこって
いても、わからない
ときがあるんだ。

「おこっている」と
ことばで伝えてね。

集中しようと
しても少ししか
続かないんだ。

そっと かたを
たたいてね。



—周囲の理解と支援が必要です—
ともだちと仲よく勉強をしたいと思っ
ているのに、どうすればいいのかわから
ず、本人が一番困っています。周りの理
解でトラブルは少なくなります。
また、子どもたち一人一人のよさに目
を向け、よりよく伸びるよう地域で子
どもたちをはぐんでいきましょう。

気になったら まずは ご相談ください

各小・中学校

担任

特別支援教育コーディネーター

教育相談センター
0120-88-4266

相談員

臨床心理士・学校心理士

スクールソーシャルワーカー

教育委員会指導課
763-2448

担当指導主事

他にもこんなところで相談できます

市役所

家庭児童相談室

医療機関

県立小児医療センターなど

福祉機関

越谷児童相談所など

県立学校

春日部特別支援学校

宮代特別支援学校



特別支援学級・通級指導教室を設置している学校

知的障害特別支援学級

粕壁小、内牧小、豊春小、武里小、
幸松小、豊野小、備後小、八木崎小、
牛島小、上沖小、正善小、立野小、
藤塚小、武里西小、川辺小、桜川小、
中野小
春日部中、東中、豊春中、武里中、
豊野中、緑中、大増中、葛飾中、
飯沼中

自閉症・情緒障害 特別支援学級

粕壁小、内牧小、豊春小、幸松小、
豊野小、備後小、八木崎小、
牛島小、緑小、上沖小、正善小、
立野小、宮川小、武里西小、
南桜井小、川辺小、桜川小
春日部中、東中、豊春中、武里中、
大沼中、豊野中、緑中、大増中、
葛飾中、飯沼中

発達障害・情緒障害

通級指導教室

備後小、牛島小、武里中

難聴・言語障害

通級指導教室

豊春小、武里南小